

【再話】

行商人の夢

昔々、イギリスでのことです。ノーフォーク州のスワファムに一人の貧乏な行商人が暮らしていました。

ある日のこと、その行商人は夢を見ました。それは、ロンドンの大きな橋でのことです。そこで、「ロンドン橋へ行くがよい。そこでよい話が聞けるぞ。」

と言う話を聞きました。その話を聞いた途端に行商人ははっと目が覚めました。しかしこれが夢だということに気付くと、またふとんをかぶって寝てしまいました。しかし、それが二晩も三晩も続くとさすがに気になります。そこで行商人は、荷造りをして実際にロンドン橋へ行ってみることにしました。

車も自動車もなかった時代のことです。行商人は何日も何日も歩き、やっとロンドン橋へ着きました。ロンドン橋の両側にはたくさんの店があります。そこで早速、行商人は橋の上を一日中、行ったり来たりしました。しかし、よい話など聞くことができません。とうとう行商人はあきらめて、橋の上で、寝てしまいました。行商人は二日目も、一日中よい話を待ち続けました。しかし橋の上を通る者は、みんな素通りするばかりです。

さて、三日目になりました。行商人あきらめきれずに、橋の上を行ったり来たりしていました。するとロンドン橋の近くの店の人が、橋の上を三日間もずっと行ったり来たりしている行商人を見て、彼は商いをしているようにも見えないので不思議に思い、彼のところまでやってきて訪ねました。

「お前さんは、何をしているのかね。三日もずっと橋の上を歩いているではないか。行商をしたり、ものごいをしたりしているようにも見えないぞ。」

すると行商人は、

「わたしは、橋の上で行商をしているわけではありません。ものごいなんて、とんでもない。しっかり商いをして暮らしているものです。何のためにここへ来たかって。まあ素直に打ち明けると、ロンドン橋でよい話が聞けるだろうという夢を見たんです。そのよい話を聞きにやって来ました。」

と、夢の話を打ち明けました。すると店の人は大笑いして言いました。

「つまらない。そんな夢を見ただけで、ここへやってくるなんて、お前もずいぶん酔狂なやつだね。見たところによると、ずいぶん遠い所から旅をしてきたようではないか。だがわしも、奇妙な夢を昨夜見たんだ。そこでは、わしがスワファムという知らない町で、行商人をしていたのだが、うちの裏庭の畑で、カシの木の下で宝がたくさん出てきたんだ。まあ、わしもそんなに暇ではない。まじめに働くのが一番よい。」

行商人は、スワファムということばを聞いた瞬間、思わず叫びそうになりましたが、我慢して口を閉じていました。そして飛ぶように家に帰り、家の裏庭のカシの木の下を掘りました。すると、たくさんの宝がでてきました。行商人が大喜びしたのは言うまでもありません。

こうして男は、大金持ちとなりました。しかし行商人は、働き者だったので、富におぼれることもなく、まじめに勤勉に働きました。